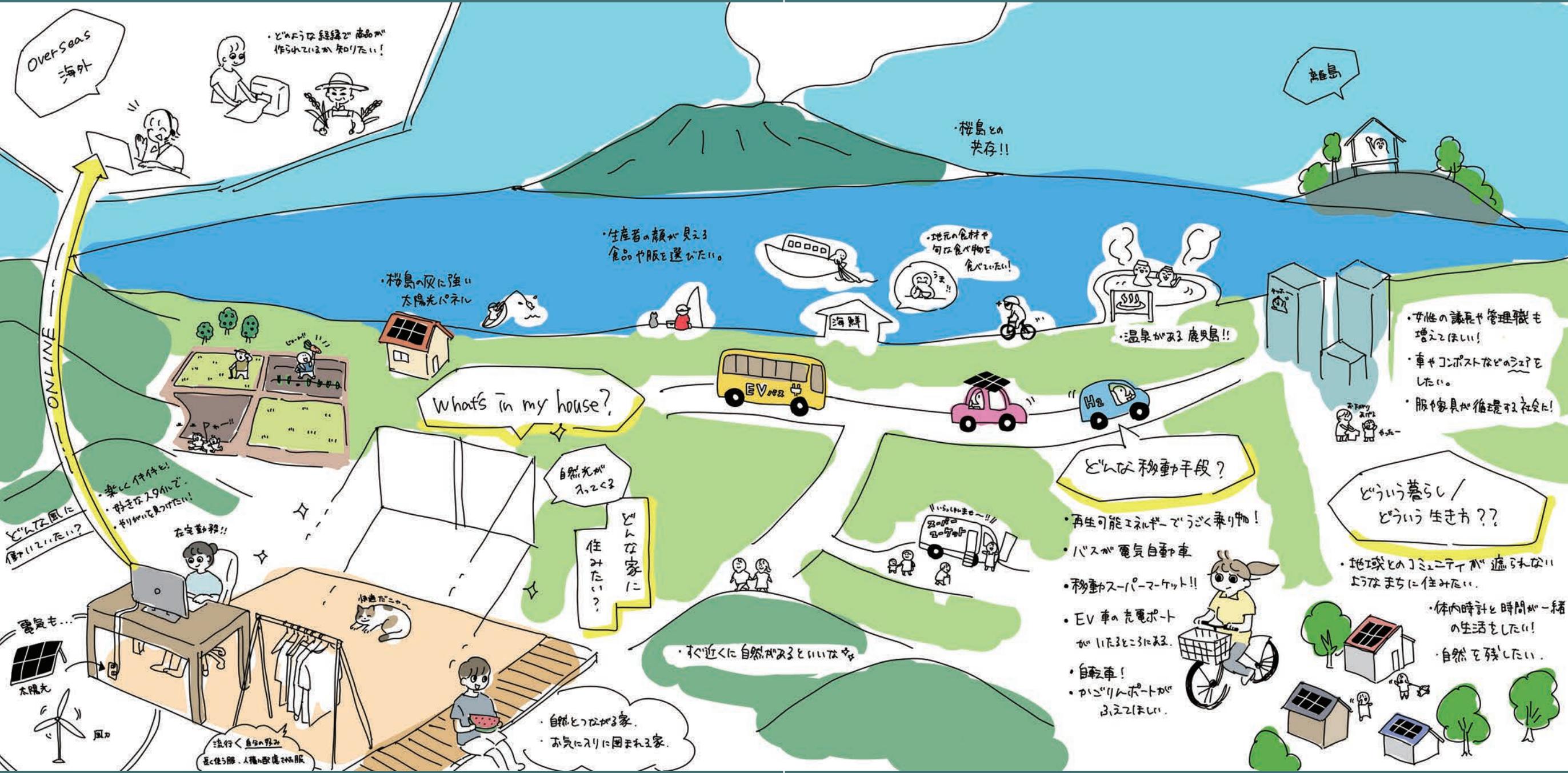


2022年12月発行  
主催：公益財団法人地球環境戦略研究機関（IGES）  
企画・運営：合同会社 hataori  
後援：鹿児島県、鹿児島市  
協力：そらのまち総菜店  
デザイン：沼口佳代  
撮影：tumugi（P1のみ）

このワークショップは環境省事業「令和4年度都市地域炭素マッピング調査等委託業務」の一環で実施されました。

# かごしま 1.5°Cライフスタイル ワークショップ



2050年、わたしたちは、かごしまで、この暮らしを選ぶ。

私たちがこのままの生活を続けると、今世紀後半に地球の平均温度は産業革命前と比べて、最大4.4℃上昇すると予測されています(IPCC 2021年)。国連のパリ協定は、これを2℃、さらに野心的な1.5℃に抑える目標に向かっていきます。この「1.5℃目標」を達成するには、日本人一人当たりの温室効果ガス排出量を二酸化炭素換算で、年間7,600kg(2017年)から、2030年には2,500kg、さらに2050年には700kgにまで減らすことが必要とされています。生産と消費の双方からの改革が求められています。

このように、大きな削減が求められていますが、特に、消費者側からの対策やその効果については、一般的にはわかりにくいものです。そこで、IGESは個人が消費する製品やサービスの製造や輸送過程にさかのぼって排出量を算定する「カーボンフットプリント」という概念に注目しました。移動、エネルギー、食、製品、レジャーという生活に密着した4つの分野において、生活の質を向上しつつ、個人のカーボンフットプリントを減らす65の生活様式の選択肢を示した「1.5℃ライフスタイル・オプションカタログ」を開発し、市民向けの啓発ワークショップを全国の地方自治体と連携して、展開しています。

九州においては、2021年度に引き続き、脱炭素社会を目指す鹿児島県および鹿児島市の後援のもと、「かごしま 1.5℃ライフスタイル・ワークショップ」を2022年8月から10月にかけて、4段階のステップで開催しました。2050年の脱炭素社会で、社会を牽引している鹿児島県在住の若者と、気候変動について知り、脱炭素型ライフスタイルを実践し、将来のかごしまを考えました。このプロセスと、そこから生まれた考えやアイデアなどをここに記録することで、市民を巻き込んだ行動変容の広がりのきっかけとなれば幸いです。

公益財団法人 地球環境戦略研究機関 (IGES)  
北九州アーバンセンター

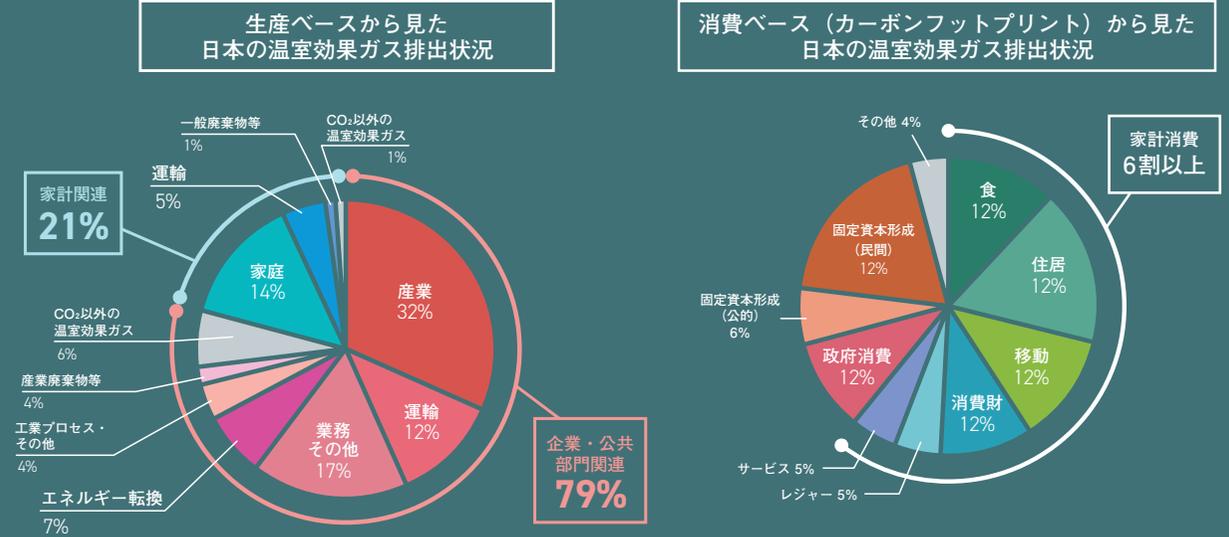


はじめに・目次	P1
わたしたちのライフスタイル・カーボンフットプリント	P2
1.5℃ライフスタイル・ワークショップの全体像	P3-4
インスピレーショントーク	P5-6
社会へのリクエストとわたしが起こしたいアクション	P7-8
ワークショップの振り返り	P9-13
あとがき	P13
【参考】鹿児島市の現状	P14

日本の温室効果ガスの6割は生活から

日本の温室効果ガス排出量を消費ベースから見たものをカーボンフットプリント※と言います。家計関連のものは、生産ベースでは2割程度ですが、消費ベースだと6割以上を占めています。私たちの生活を支える製品やサービスを利用することを通して排出される温室効果ガスの量を「ライフスタイル・カーボンフットプリント」といいます。

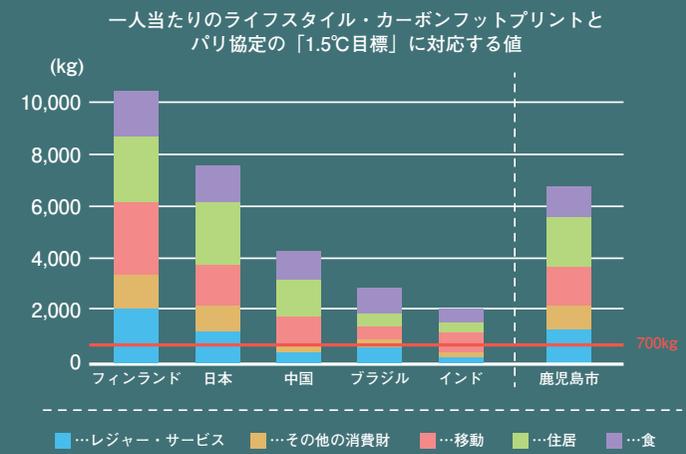
※カーボンフットプリントは、直接的に家庭で利用する都市ガスやガソリンの燃焼だけでなく、家計が消費するあらゆる製品やサービスの資源採掘、素材生産、製品組立、輸送、使用、廃棄までのライフサイクル(ゆりかごから墓場まで)において排出される温室効果ガスを把握する指標です。



出典：環境省(2020)「令和2年版環境・循環型社会・生物多様性白書」

パリ協定の「1.5℃目標」の達成に向けて

パリ協定の「1.5℃目標」を達成するためには、世界中で一人当たりのライフスタイル・カーボンフットプリントを2050年までに700kgにまで減らす必要があります。現状、平均的な日本人は7,600kg、鹿児島市民は6,900kg排出していますから、いずれもあと30年で10分の1に減らさなければなりません。そのためには、カーボンフットプリントを減らしながら、なおかつ楽しさや快適さ、便利さも享受できるようなライフスタイルに変えていく必要があります。



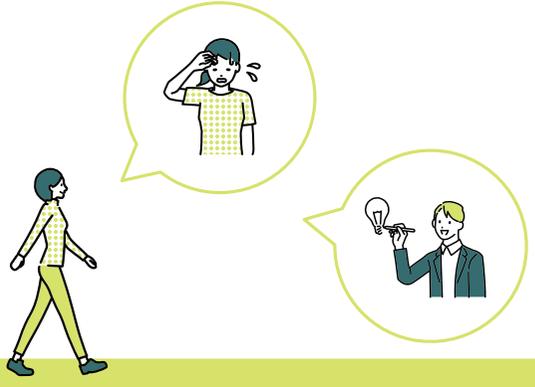
出典：(フィンランドからインドまでのデータ)：小出ら(2020)「1.5℃ライフスタイル—脱炭素型の暮らしを実現する選択肢—日本語要約版」、IGES。出典：(鹿児島市のデータ)：小出ら(2021)「国内52都市における脱炭素型ライフスタイルの選択肢：カーボンフットプリントと削減効果データブック」、NIES。

# ABOUT THE 1.5°C LIFESTYLE WORKSHOP

## 1.5°Cライフスタイル・ワークショップの全体像

### 目的

個人の生活において、地球温暖化の原因となる温室効果ガス（GHG）排出を抑制する具体的な選択肢を知り、実践するワークショップです。また、個人の行動が、国連パリ協定の1.5°C目標や自治体のゼロカーボン宣言にどう繋がるか、視野を広げていきます。後半は、実践から感じたメリットや課題から、1.5°Cライフスタイルを可能にする社会システムについて考え、自治体や地域のステークホルダーとの対話をします。



## STEP1

### 地球環境について知り、わたしの1.5°Cライフスタイルを考える

最初に、インスピレーショントークとして鹿児島ゆかりの環境活動家の大岩根尚さん・中村涼夏さんの経験談を聞き、鹿児島県と鹿児島市から、2050年までにゼロカーボンを目指すビジョンについて発表していただきました。次に、参加者が思いの価値観を共有し、2050年に住んでいたい鹿児島の未来の生活イメージを付箋に書いていきました。それらの言葉をビジュアル化し、かごしまの未来像を描きました（表紙・裏表紙）。IGESからは、パリ協定の1.5°C目標、カーボンフットプリントの概念、鹿児島の統計上の特徴などについて、知見を提供しました。



## STEP2

### わたしの1.5°Cライフスタイルを実践する

移動、エネルギー、食、製品、レジャーの5分野にわたる計65の生活手段や消費の選択肢を提示した「1.5°Cライフスタイル・オプション・カタログ」（IGES作成）から、3つを選択し、2週間の実践をしました。実践の結果に加え、実践を通じて見えてきた課題やメリットも日誌に書き留めました。そこから、課題克服のアイデアや関与すべきステークホルダーを考えました。



## STEP3

### 実践を振り返り、1.5°Cライフスタイルを可能にする社会を考える

「私の1.5°Cライフスタイル」の実践を振り返り、成功した理由、続かなかった理由を共有しました。私たちにできること、また、私たちに継続するには社会的な障害があり、企業や自治体などに求めることに整理していきました。鹿児島市からは、市が抱える課題（運輸、電気部門）について現状を聞き、個人から社会へ視点を広げました。



## STEP4

### 自分ができると社会へ望むことについて、地域のステークホルダーと対話する

鹿児島県、鹿児島市の自治体の職員、地域の企業・団体の方々をお招きし、参加者は自分の考えを伝えました。私たちが行う1.5°Cライフスタイルの宣言と、それを可能にする社会をつくるための企業や自治体などへの提案を各参加者またはグループでスライドにまとめました。地域のステークホルダーとして参加した企業、団体、自治体は、参加者の発表に対して、コメント、助言、感想、情報提供などで応え、対話を行いました。最後には、一つの円を描いて座り、気づきや感想を共有して終了しました。

＜参加自治体、企業、団体＞  
鹿児島県、鹿児島市、日本ガス株式会社、鹿児島銀行、NPO 法人桜島ミュージアム、NatuEco Life Market.  
(敬称略、順不同)



### 1.5°Cライフスタイルとは？

世界の全ての国が合意した国連のパリ協定は、地球の平均気温の上昇を、産業革命前と比べて、1.5°Cに抑えることに向かっています。この「1.5°C目標」を個人の生活の観点からとらえ、地球温暖化の原因である温室効果ガスの排出を減らしながら、生活の質も豊かにするライフスタイルのことを「1.5°Cライフスタイル」と呼んでいます。

# INSPIRATION TALK

## インスピレーショントーク

大岩根 尚 (おおいわね ひさし)

環境学博士  
株式会社 musuhi 取締役  
大崎町 SDGs サークュラービレッジラボ所長



### 必要なものは、そんなくない

大学時代は島に泊まり込みで、「この島がなぜ島になったのか」を研究していて、卒業後は研究者として南極観測隊隊員となり、地層や地形、岩石などから気候変動の痕跡を探していました。

研究者を辞めて鹿児島に移住し、硫黄島でのジオパーク認定にむけた仕事をする中で、地球がむき出しのこの島が本当に好きになって移住しました。スーパーもない島だけど全然不便だとは思わない。五右衛門風呂や囲炉裏が使えるので、電気やガスが止まっても生活できるんです。もちろん夏は暑いし冬は寒いけど、季節のめぐる幸せを感じながら過ごしています。

### わたしたちの“ために”気候変動が起きている

2019年にグローバル気候マーチと出会って、研究者ではない人たちに気候危機の事実が知られていないことに気がつきました。研究者たち（かつては自分もその一人でした）が解き明かしてきた成果として大きなものは「この10年くらいの私たちの生活が、今後数万年から数十万年間の地球の気候を決める」というくらい、現在は地球史スケールで見ても大切な時期であるということ。私たち世代の責任は本当に重要なんです。温暖化を解決するための具体的な方策を100個示してくれた「ドローダウン」という書籍がありますが、その著者ポール・ホーケンが「私たちの“ために”気候変動は起きている」と言います。僕たちが本当に望む良い地球や良い地域が作られていくために、気候変動の対策は本当に良いきっかけになる、という考え方です。私たちの豊かな地球が子孫にも遺せるように、ライフスタイルを選んでゆきましょう。



There's not much you need.  
Climate change is happening for us.



「気候変動」と聞いても、正直なところ身近に感じられない方や、何をしたらよいか分からない方も多いのではないのでしょうか。本ワークショップでは、冒頭に、参加者へ着想を与える「インスピレーショントーク」として、地域で活躍されている世代の違う環境活動家2名をゲストスピーカーに迎えました。島全体が活火山である硫黄島に暮らしながら、環境博士として鹿児島県大崎町で循環型社会構築のための科学的知見を提供する大岩根さん。高校生の時から多くの若者の社会運動をリードし、鹿児島を拠点に世界各地で気候危機対策の必要性を訴え続けている中村さん。専門家と同世代の大学生がどんなことを感じながら生活し、何に挑戦しているのかをお聞きする中で、自分の1.5℃ライフスタイルを行うにあたっての大切な価値観に気づくことができました。

中村 涼夏 (なかむら すずか)

鹿児島大学 水産学部3年  
環境アクティビスト



### 環境活動家・グレタ・トゥンベリとの出会い

鹿児島大学の水産学部に通いながら、気候正義や政治にも触れる活動をしています。きっかけは高校生のとき、グレタ・トゥンベリとの出会いでした。「あなた方は自分の子どもを愛していると言いながら、その目の前で子どもたちの未来を奪っています」という言葉に影響を受け、日本で1.5℃目標を実現するための活動を始めました。Fridays For Future Japan という若者の運動体に参画し、気候正義に則る対策を求める社会活動をしていました。現在は気候危機を記憶する発信型ムーブメント「record 1.5」の共同代表をしています。

### 我慢ではなく、新たな価値観である

気候変動の対策として、「ライフチェンジ」と「システムチェンジ」が大きくあります。システムチェンジは社会システム全体を変えよう、というものです。例えばストライキやデモなどの運動に参加したり、選挙に行ったり、パブリックコメントを書いたり、社会に対してのアクションは少ないように見えて、たくさんあるんです。一方でライフチェンジは自分の生活を変えることです。例えば食べものの地産地消を心がけたり、冷暖房をむやみに使わないようにしたり、古着を買うなどがあります。ここで大切にしてほしいことは、「変化に弱い立場を考える」とことと「我慢ではなく、新たな価値観である」ことです。何かの気候変動対策をできない人たちもできない場合もあるので、できない声をしっかりとアピールしましょう。そして、我慢や制約にするのではなく「自分も楽しめること」を大切にしながら未来に向けて進んでいきましょう。



It's not "patient".  
It's new values.



# 1.5-DEGREE LIFESTYLES

## 社会へのリクエストとわたしが起こしたいアクション

たくさんの方が  
環境問題を知る  
きっかけ作りをして欲しい!



公共交通機関の  
決済方法を  
多様化してほしい!

CFPと食の  
つながりを感じる  
消費の流を変え

### 社会への リクエスト

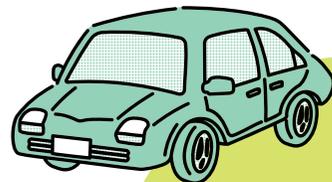
会社のスィッチに  
案内の張り紙を  
貼り付けたい

自然光で暮らせる  
建物設置の推奨!



学校給食の献立を  
環境に配慮したもの  
にして欲しい!

CFP×食を  
意識する消費へ!



大学敷地内に  
EV充電スタンドを  
設置してほしい!

このワークショップでは、3カ月間、気候変動に関する専門的な知識を得るだけでなく、一人ひとりが日常生活の中でどんな行動を起こすことができるのかを実験的に進めてきました。実践することで見えてきた課題や手応えをもとに、一人ひとりが「社会へのリクエスト」と「私ができるアクション」を発表しました。それぞれが手書きで、思いを込めて書いた提言と宣言をご紹介します。

ヴィーガンDAYを  
週一で取り入れる

家族を巻き込んで  
チャレンジを続ける!

月に5回は  
公共交通機関を  
使って移動!!

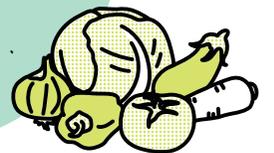


### わたしが起こしたい

### アクション

SNSで  
「今日できるエシカル」  
な内容を発信する

1週間に1日  
「ヴィーガンDAY」  
を設ける



無駄な  
買い物をしない!

[てまどり]の徹底

環境のためにより良い  
選択が無いかを模索し  
社内で提案していく



お昼のうちに  
活動する!



# REFLECTION ワークショップの振り返り

全てのプログラムを終え、参加者の皆さんにインタビューをしました。  
それぞれが生活をしていく中で、どんな経験をしたか、どう感じたかを教えてもらいました！

一番自分に影響を与えた1.5℃ライフスタイルは？

ベジタリアン・ヴィーガン食！

参加前と後で変わったことはなんですか？

正直、参加する前の私にとって気候変動は他人事でしたが、STEP1を通して「1.5℃ライフスタイル」のバックストーリーを知り、危機感を覚え、自分ごととして考えられるようになりました。

感じた課題や手応え、自分の中で起こった変化とワークショップを振り返って改めて感じていることを教えてください。

食べることが大好きなので、食事制限は大変でした。参加する前は「今食べたいもの」を買っていましたが、「私が選択することでどれだけ環境負荷が生じるのか」を考えるようになりました。環境問題と向き合ったこの2ヶ月間、同じ経験をした参加者同士でも、考えることや感じることは全然違うことに気づきました。多様性が求められる時代だからこそ、「環境に配慮することはあくまでも選択肢の一つ」ということを忘れてはいけないと感じました。

食	動物性食品を減らす	野菜・豆類中心に
49	野菜・豆類中心の食生活 (ヴィーガン食)	

これからどんな1.5℃ライフスタイルを実践していきたいですか？

美容や健康にも良いため、ヴィーガン食は定期的に取り入れていきたいです！また、「一人の100歩よりも、100人の一歩」の言葉のように、気候変動は地球規模なため、環境問題に関心を持つ若者を増やせるような活動をしてみたいです！



かのん 大学生

一番自分に影響を与えた1.5℃ライフスタイルは？

ペスカタリアン！

参加前と後で変わったことはなんですか？

もともと環境問題について関心がありましたが、ワークショップに参加したことで、自分が知っていること以外にも多くの手段で環境に良いことができると知り、食事や手に取るものに関しても環境を意識できるようになりました。

感じた課題や手応え、自分の中で起こった変化とワークショップを振り返って改めて感じていることを教えてください。

大切な食事なので、ある種の制限を設け、こなすことが難しかったです。同居人がいると説明してもあまり理解してもらえなかったりする場合もあって、食と環境問題の大きな壁みたいなものを感じました。これから、これまで意識として存在していた気候変動や環境問題への危機意識と環境に良い行動をどのようにしてナチュラルに消費者の行動の中に取り込んでいくかというのを考えていきたいです！

これからどんな1.5℃ライフスタイルを実践していきたいですか？

消費の中でも、いつもカーボンフットプリントを意識しながら少しでも環境に良い選択ができるようにしていきます！



くるみ 会社員

食	動物性食品を減らす	魚介類中心に
52	魚介類中心の食生活 (ペスカタリアン食)	

一番自分に影響を与えた1.5℃ライフスタイルは？

フレキシタリアン！

参加前と後で変わったことはなんですか？

気候変動が起きているのはなんとなく感じるけど、それについて普段の生活で誰かと話すことはなかったので、参加者と「最近暑いよね」と話しているときに、本当に気候変動起きているんだと改めて感じました。

感じた課題や手応え、自分の中で起こった変化とワークショップを振り返って改めて感じていることを教えてください。

2年前から、家ではなるべくお肉、魚を食べない生活をしてきて、食生活に気を使うようになり、成分表を見たり、よく調べるようになりました。プレゼンで少し挑戦的な提言をしたんですが「こうすれば可能になるかも」「それに関係することであろうと、うちの企業ではこんな取り組みをしている」などのフィードバックをいただき、鹿児島企業も前向きに取り組んでいることが伺えて嬉しかったです！



櫻井サキ 大学生

食	動物性食品を減らす	野菜・豆類・乳製品・卵中心に
50	野菜・豆類・乳製品・卵中心の食生活 (ベジタリアン食)	

これからどんな1.5℃ライフスタイルを実践していきたいですか？

自分が心地よいエシカルライフを実践・発信してエシカルのモデルロールになりたいです！

一番自分に影響を与えた1.5℃ライフスタイルは？

お菓子や清涼飲料水を摂らないこと！

食	食品の過剰摂取を減らす	飲料・菓子
44	バランスの取れた健康的な飲み物と間食	

参加前と後で変わったことはなんですか？

参加する前は、なんとなくプラごみ削減などの社会の流れについていく感じでしたが、このワークショップで気候危機に対する全体のゴールや大枠がはっきりと理解できたことで、なぜいま1.5℃ライフスタイルが重要視されているのかを自分ごととして実感することができました！

感じた課題や手応え、自分の中で起こった変化とワークショップを振り返って改めて感じていることを教えてください。

ニキビができにくくなったり、捨てるプラスチックゴミの量が減ったり…環境に良い生活をしているという実感以上に、丁寧な暮らしをできているなという感じがあって、QOLが上がりました！また、プレゼンに対して、皆さんが予想以上に納得してくれたことが良かったです。練習の段階でより納得してもらおうための表現の仕方から、論理的に話すための具体的な指摘なども頂けたことでプレゼン力が上がる機会にもなりました。



ねじ 大学生

これからどんな1.5℃ライフスタイルを実践していきたいですか？

定期的なヴィーガン生活！

# REFLECTION

## ワークショップの振り返り

一番自分に影響を与えた 1.5°Cライフスタイルは？

日用品・消耗品を厳選して使い切る

参加前と後で変わったことはなんですか？

環境に配慮する代わりに何かを我慢するというイメージがありましたが、地元で採れた新鮮な美味しい野菜を食べたり、今あるものを丁寧に扱ったり、生活を豊かにするというイメージに変わりました。

感じた課題や手応え、自分の中で起こった変化とワークショップを振り返って改めて感じていることを教えてください。

購入する前に、家にあるもので代用できないか、今あるものを修理して使えないかを考えてから購入するようになりました。

また、今回の学びを活かして、普段の業務とは全く違う、環境という面からも会社をもっと良くしていくことができるかもしれないということにワクワクしています！



ふゆ  
会社員

製品	新品の購入量を減らす	日用品・消耗品
62	日用品・消耗品の厳選と使い切り	

これからどんな 1.5°Cライフスタイルを実践していきたいですか？

ワークショップ期間中は家族にすら 1.5°Cライフスタイルを広められなかったで、自分が心掛けるだけでなく、どう工夫すれば周りの人もできるかを考えていきたいです！

一番自分に影響を与えた 1.5°Cライフスタイルは？

地産地消！

食	野菜	旬のものを食べる
54	野菜の旬産旬消	

参加前と後で変わったことはなんですか？

今、気候危機なんだということを初めて知りました。ワークショップを通して気候危機であることを身近に感じられて、私自身も行動しなければいけないと思うようになりました！

感じた課題や手応え、自分の中で起こった変化とワークショップを振り返って改めて感じていることを教えてください。

今までは必要以上に買ったり、安いものを買ったりしていたけど、自分の必要な分だけ、地域のものを買うように心がけられるようになりました。自分はまだまだ、環境のこととか、どうしたら環境危機を緩和できるかとか考えるのに知識が足りないと感じましたが、他の人のプレゼンを聞いて得た新しい視点をこれから活かしていきたいです！

これからどんな 1.5°Cライフスタイルを実践していきたいですか？

ワークショップを通して本当に今気候危機なんだな、と感じました。今が変わらないといけない時なので、今後も地産地消や、節電など個人単位でできることを実践していきたいです。



さくちゃん  
大学生

一番自分に影響を与えた 1.5°Cライフスタイルは？

ナッジングによるエネルギーの節約！

エネルギー	冷暖房	節約
34	ナッジングによるエネルギー節約	

参加前と後で変わったことはなんですか？

参加前は、気候危機の原因は工場などの企業が主な原因だと思っていて、個人がその改善に貢献できるとは思いませんでした。今回、カーボンフットプリントを知ったことで私が行動を変えることが気候危機の歯止めに貢献できることを知りました。

感じた課題や手応え、自分の中で起こった変化とワークショップを振り返って改めて感じていることを教えてください。

省エネはもちろんですが、家族との団欒が以前より増えました！実践した期間が夏場だったので、クーラーをリビナー一台だけにしてリビングで過ごした事で、自然と以前に増して家族の会話が増えました。私は元々自然の緑が好きで、それを無くしたくないなと思っていて、今回参加しました。解決するために個人ができることは限界がありますが、その小さなアクションに誰かを巻き込んだら大きな効果が出ることを知れました。



りん  
大学生

これからどんな 1.5°Cライフスタイルを実践していきたいですか？

ナッジングは続けます！次は私が仲間をどんどん増やしていきたいです。気候危機に向き合うことは決してハードルの高いものでも、意識高い系の人がするものでもなく、みんなで取り組むということを広めていきたいと思います！

食	動物性食品を減らす	野菜・豆類中心に
49	野菜・豆類中心の食生活 (ヴィーガン食)	

一番自分に影響を与えた 1.5°Cライフスタイルは？

ヴィーガン生活！

参加前と後で変わったことはなんですか？

なんとなく知っていた環境問題について、より深く知ったことで、自分の身の回りに改善できる点がたくさんあることが分かりました！

感じた課題や手応え、自分の中で起こった変化とワークショップを振り返って改めて感じていることを教えてください。

5日間のチャレンジでしたが、当たり前のように食べていたものが食べられなくなるこの大変さを身を持って体感し、食への有り難みを感じるきっかけにもなりました。プレゼンでみんなの前で自身の宣言を言葉にしたことによって、「ちゃんとやらない！」という責任感が芽生えました。自分のやるべきことがより鮮明になった気がします。

これからどんな 1.5°Cライフスタイルを実践していきたいですか？

宣言した、週1ヴィーガン生活を意識した生活をしてみます。無理なく環境に根ざした活動ができる範囲からコツコツやっていきたいです！



上原太陽  
大学生



おすすめ  
大学生

一番自分に影響を与えた1.5°Cライフスタイルは？

二酸化炭素排出量を気にして、移動手段を検討

参加前と後で変わったことはなんですか？

参加前より、さらに自分自身の二酸化炭素排出量を気にした衣食住や生活スタイルを実践することができています。また、鹿児島の将来像を描くことで共通の大切にしたい価値観を見つけ出すことができたところがとても良かったです。

感じた課題や手応え、自分の中で起こった変化とワークショップを振り返って改めて感じていることを教えてください。

将来を見越して車の購入を考えるようになったので、EV充電ポートなど社会設定の在り方をよりリアルにイメージすることができました。鹿児島での車移動は近い未来必須である点から、現実的な手段を思い描くことができたと思っています。一人一人の実践を生かした発表は大変興味深く、ナッジは若者から変えていくととても有効的であることなど面白い点が多かったです！

これからどんな1.5°Cライフスタイルを実践していきたいですか？

引き続きできるだけ完全菜食を目指して生活をしたいです！  
そして、将来的な移動手段を考えていくために、車の移動や長距離移動手段など新たな価値観を基準にしていきたいです。



### 関係者からひとこと

2050年の世界をつくっていく若者たちと、かごしまの未来について一緒に考え、語り合った熱い夏となりました。猛暑、台風上陸と…本当に気候変動を感じながらの3カ月間、ありがとうございました！ (IGES 大田純子)

皆さんと一緒にできてとても楽しかったです。このワークショップを通して得られた知見を踏まえ、「1.5°Cライフスタイル」をさらに広めていきます！ (IGES 赤木純子)

皆さんが真摯に取り組む姿勢に、明るい鹿児島の未来を感じました！ご参加ありがとうございました。 (IGES 堀苑志乃)

今回の参加者は様々なチャレンジをされました。人それぞれ「できること」と「できないこと」がありますので、みなさんには、選択肢（知識）と仲間を増やし続けて欲しいなと願います。一緒に行動しましょう。 (鹿児島市 環境政策課 西瀬戸一郎)

みなさんが考え、実際に行動する姿を見て、改めて自分自身を見直すきっかけをいただきました。今回のワークショップで生まれた様々なアイデアをいつか一緒に実現できたらと思います。 (鹿児島市 環境政策課 有村太一)

「2050年のかごしま」（未来像）をグループで考える時間は、自分の価値観を再認識する機会になりました。これからも個人・行政としてできることを考え、できることから実践していきたいです。 (鹿児島市 環境政策課 松尾歩美)

1.5°Cライフスタイルを考える中で、新しい気づきに溢れて、自分1人からでもできることがあると、気づくことができました。大好きな鹿児島で、2050年も豊かな暮らしがあることを願って、これからも動き続けましょう。 (hataori 高橋空雅)

かごしまの未来像をみんなで考えた時、「自然との共存」がキーワードとなっているところにかごしまらしさをとても感じました。これからも私たちにできることを考えて、一緒にかごしまの豊かさを守っていきましょう！ (hataori 板松汐音)

# 【参考】鹿児島市の現状

## ゼロカーボンシティかごしま

鹿児島市は、2050年までに鹿児島市域のCO<sub>2</sub>排出量を実質ゼロ※にする「ゼロカーボンシティかごしま」の実現に、市民や事業者等と一体となって取り組むことを宣言しています。

※実質ゼロとは、私たちの活動から出るCO<sub>2</sub>と森林などが吸収してくれるCO<sub>2</sub>が等しくなること

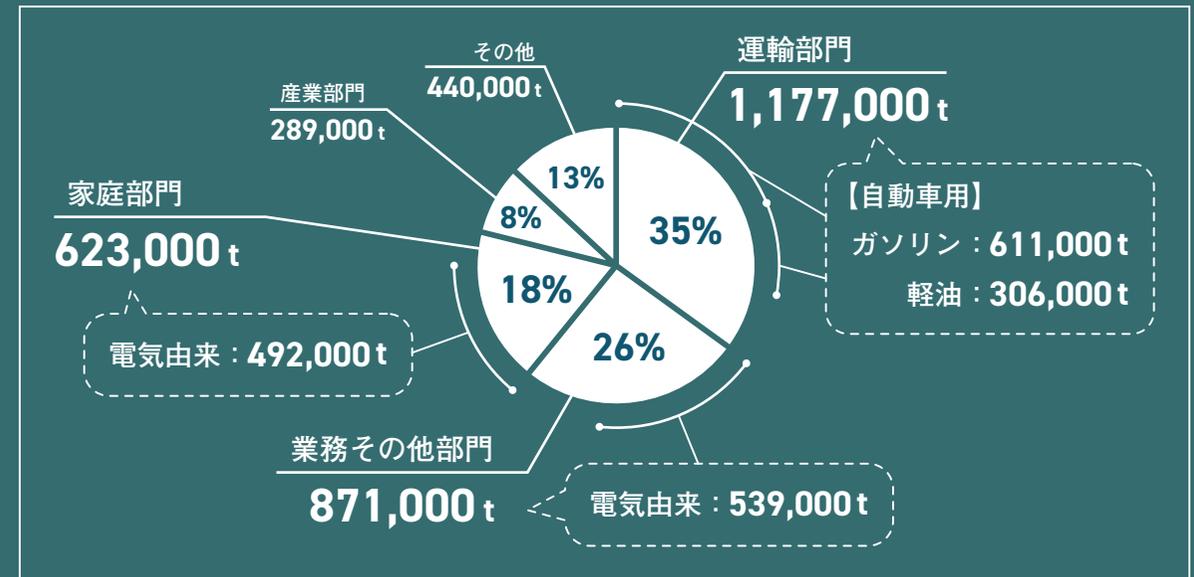
## 鹿児島市の現状

2019年度（令和元年度）の鹿児島市のCO<sub>2</sub>排出量

市民1日一人当たりに  
換算すると



# 3,400,000t ▶ 16kg/日



## 鹿児島市の取り組み

- ①再生可能エネルギーの導入および利用拡大の推進  
太陽光発電システムの設置を行う事業者等や、同システムと「ホーム・エネルギー・マネジメント・システム (HEMS)」の併置などを行う市民等に対する助成
- ②電気自動車・燃料電池自動車等の普及促進  
電気自動車等を購入・リースする市民等への補助、公用車への電気自動車等の導入
- ③コミュニティサイクル「かごりん」の運営  
市内中心部に設置する27か所のサイクルポートで、どこでも自転車の貸出・返却ができるコミュニティサイクルの実施  
※令和4年12月現在（令和5年度から新たなかごりんを導入予定）
- ④かごしま環境未来館の運営  
本市の環境学習・環境保全活動の拠点施設。映像や体験型展示を通して、環境について楽しく学べるほか、環境に関する講座やイベントを開催  
所在地：鹿児島市城西二丁目1番5号 開館時間：9:30～21:00（日曜日、休日は18:00まで）  
休館日：月曜日（休日の場合は翌平日）、12月29日～1月3日

